

## 【発表要旨】

課題名：シカ食害地の防除方法の比較検討について

(国研)森林研究・整備機構 森林整備センター

長野水源林整備事務所 ○収穫係長 たかはし 高橋 かつあき 克明

造林係 いけがみ 池神 まなみ 真奈美

### 1. 課題を取り上げた背景

長野県内では幼齢木に対する食害が発生しており、その主な原因はニホンジカおよびカモシカであるとされています。食害に対する防除方法について森林整備センターでは忌避剤散布、防護柵の設置などを行ない、一定の効果が得られているところです。しかし、積雪等によりこまめな巡視や作業の行えない現地では被害を十分に防ぎ切れていない場合があります。そのため、防除効果が高く、メンテナンスの必要があまりないとされる単木ネット資材の効果、耐久性等を検証し、今後の事業の参考とすることを目的としました。

### 2. 取組の経過

長野県下伊那郡根羽村内のヒノキ植栽地にて250本の試験木を選定し、50本ごとに

- i) 柔軟性のある支柱にネットのみを設置したもの
- ii) 柔軟性のない支柱にフレームつきのネットを設置したもの
- iii) iiの資材に30×30cmの防草シートを追加したもの
- iv) iiの資材に50×50cmの防草シートを追加したもの
- v) 忌避剤による防除を行なうもの

の5つに分け、平成29年6月と12月に資材の状況、植栽木の生育状況、食害の有無を調査することとしました。

### 3. 実行結果

- i) 柔軟性のある支柱で設置したネットは破損が一つも無かったのに対し、柔軟性のない支柱で設置したネットは支柱が折れ曲がったものが1割程度発生しました。
- ii) ネットのみで設置したものはネットが植栽木を巻き込んだ状態で支柱に絡まっていたものが1割程度ありました。フレーム付きのネットについては植栽木の状態は良好でした。

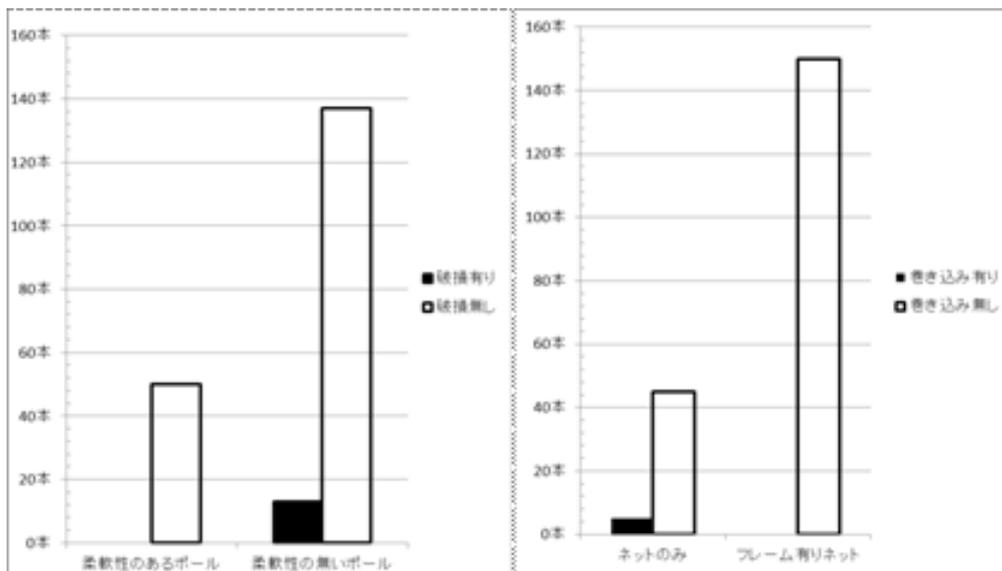


図1：支柱の違いによる破損状況

図2：ネットの違いによる植栽木の巻き

### 4. 考察

今回の支柱の破損やネットによる植栽木の巻き込みの原因は10月中旬から襲来した台風の影響ではないかと考えられ、風対策としては柔軟性のある支柱とフレームの入ったネットが有効では無いかと考えられます。

今後は積雪や下草による影響、食害の状況など継続して調査していく予定です。